

文化財を訪ねて



橿原・今井町『旧・米谷家』

朝日 勝彦

奈良県橿原市の今井町へ出掛けてみました。街並み全体が江戸時代の風情を残す貴重な文化財です。その中に「旧・米谷家住宅」があります。18世紀の中頃には金具商として、かなりの繁栄を極めたそうです。

重要文化財として登録するために、調査・解体後、昭和50年に再建(復元)されました。

この建物の外観シルエットは、道側前面の軒高さ(屋根面高さ)を低く抑えた「切り妻型」の大屋根が強いインパクトを与えています。たまたま、同家の向かい側が空地で、少し離れた位置から見る事ができました。

今井町には数多くの文化財がありますが、ほとんどは、見学するためには事前予約が必要で有料、中には非公開もありますが、ここは見学自由でしたので中へも入りました。商家としては珍しいと思われる広い土間空間があり、ご飯を炊く「かまど」が見られます。上部を見上げると吹き抜け空間が屋根面へと広がり、永年の煙で燻された梁材が黒光りしています。



私も建築設計として木造建物を数多く経験しておりますが、この梁部材の組み方などが勉強不足で理解できませんでしたので、個人的に研究課題としていきたいと思っております。

土間から一段上がり部屋が続きますが、天井に凝った細工が見られ興味を惹かれます。現地のガイドにも紹介されておりましたが、商家でありながら農家風に造られた理由を知りたいと思いました。

今井町全体をぶらりと歩いてみましたが、老朽化が進み傾斜の激しい建物も多くみられました。地震災害などを考えると懸念されるところですが、長く後世に引き継がれるべき遺産と感じました。



私流

手軽なDIYの楽しみ方

吉持 夏希

ご存知のとおり、「DIY」は「Do It Yourself」の略で、専門業者に任せず、自分たちの手で内装空間の工事をしたり、インテリア小物を作ろうとすることをいいます。

私は高校時代に木工の授業で家具を制作していましたが、卒業してからは何かを自分で作ると思ったことはありませんでした。しかし、自宅の玄関や居間、寝室等、インテリアにこだわっています。お金をかけず、いかに自分が過ごしやすい好きなスタイルに仕上げるか、というコンセプトです。

TVや雑誌、ネットなどのDIYの特集や情報ページを見ていると、やはり挑戦してみたくになります。

そこで始めてみたのが「デコパージュ」です。木工とは全然関係ないのですが・・・。

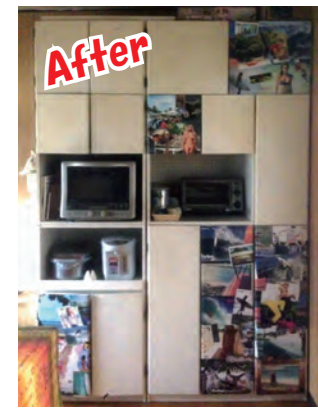
本来は、紙に描かれた模様や絵の切り抜きを貼って物の表面を飾り、コーティング剤を塗り重ねていく工芸なのですが、今ではDIY用にデコパージュ専用糊があり簡単に作る事ができます。DIYのデコパージュは、ペーパーナフキンや雑誌の切り抜きを、石鹸箱や小物ケースをデコレーションするために、専用糊で貼り付けるものです。

きっと初心者の方は小物のデコレーションから始めるのですが、私は無謀にも、いきなり食器棚のデコパージュを始めました。台所にある食器棚は真っ白のシンプルな扉が寂しかったので、何枚かある扉のうち数枚をデコパージュしていきました。扉は結構な面積があり時間がかかるので、今も進行中です。

材料としては、「100均」で売っているデコパージュ専用糊、不要になった筆、雑誌の切り抜きです。以前に買っていたファッション雑誌に風景や植物の写真がよく載っていたので、私はそれを使いました。

キーワードは海・サーフィン・夏・植物です。写真ばかりになると落ち着かないので、白い扉も残しつつ、バランスを見てデコパージュを行っています。好みがあるので、評価は期待しませんが、明るい空間や派手好きな私にとっては、お気に入りのDIY作品の完成です。

簡単にでき、材料も手に入れやすいので、ぜひ、皆さんも試してみてください！



OIS

大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
blog <http://oisblog.exblog.jp>
E-mail ois@jp-interior.or.jp

発行人：河野
編集人：田原(第3事業部長)
スタッフ：瀬部・石渡・山田
朝日・加茂・今井
五代(第1事業部長)
事務局：岡崎・奥田

検定合格

おめでとう

No.99

インテリア設計士との出会い

猪木 陽子

大塚家具に入社してから17年間。これまで数万件以上のインテリア提案をしてきた私は、ある時から心地良い暮らしの空間をトータルに演出できていないのではないかという疑問にぶつかりました。インテリア、とりわけ家具となると一番最後の選択肢になり、間取り・電気配線・内装材はすでに決定していることが多く、決定された上に付随した提案で終わってしまっているケースが多かったからです。それまで家具を販売していることだけに満足していた自分への新たな挑戦の始まりでした。

インテリアは、施主が、目や肌など五感のすべてで心地よさを感じるエレメンツの集合体です。すべてが融合し引き立てあってこそ、最高の空間演出といえると思います。お客様に負けない真剣さで空間を造り上げたいという思いは日に日に膨らむばかりでした。

そんな私にとってインテリア設計士との出会いは、まさに自分の探していた答えに導いてもらえる素晴らしいチャンスとなりました。

1級の試験内容は、平面図、展開図、電気配線図、イメージパース、設計コンセプト、仕上げ材・家具・ウィンドウトリートメント・照明器具一覧表等々、他の資格にはない多彩で、これからインテリア業界を背負う私達が総合的に提案すべき内容が詰まっています。

試験が終わった後の爽快感は、きっと自分の目指す道の一步を踏み出すことのできた喜びからだったのだと実感しています。

HASHIRIGAKI 葉知利書



第55回検定試験報告

12人が合格・和やかに“伝達式”&“歓迎会”

7月11日・12日に行われた第55回インテリア設計士資格検定試験は、1級1人、2級16人(うち1人は実技再受験)が受験し、1級1人、2級11人が合格した。単純計算による合格率は70.6%、全国の合格率74%には及ばなかったが、好成績といってもいいだろう。

合格者は登録することによりインテリア設計士の資格を取得、同時にOISの会員になり、9月26日に行われた「証書伝達式・新会員歓迎会」へと歩を進め、フレンチレストラン Pomme de Katayama に、合格者のうち7人と、合格者が在籍する学校のうち1校の先生1人を迎え、厳粛な中にも和やかに展開された。

なかで、「製図の勉強はしんどかったが、いい経験になった」「これからも勉強を続けたい」「ものづくりが好きでインテリアの道に進んだ」などと述べ、若らしい元気なところをみせてくれた。初志を忘れず精進してくれることを望むと同時に、皆さんの活躍を大いに期待している。

なお、少子化や学校の方針変更によるインテリア関連学科減少が大きな要因で、最高時には140人超を数えた受験者が、前記のような人数に減少していることを認識し回復を図りたいものである。(記・事務局)

合格者名簿

- <1級>
 - 猪木 陽子(会員)
 - <2級>
 - 木村 美晴(羽衣)
 - 合田 好輝(大芸)
 - 重山 学良(大芸)
 - 武田 元気(羽衣)
 - 津呂 純平(羽衣)
 - 寺島 理花(羽衣)
 - 新田 香織(社会)
 - 前川紗夜里(中央)
 - 増田万里子(羽衣)
 - 宮師 麻希(中央)
 - 吉川友紀乃(大芸)
- 凡例
 会員=OIS会員
 社会=社会人
 羽衣=羽衣国際大学
 大芸=大阪芸術大学短期大学部
 中央=中央工学校 OSAKA



伝達式に出席した合格者の皆さん

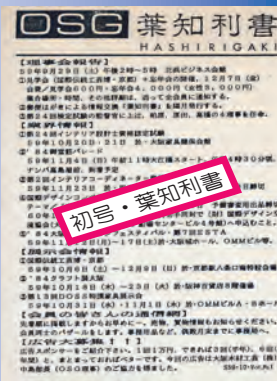
原稿募集『OISの思い出』

「葉知利書」100号にご投稿ください！

締切：12月22日

「HASHIRIGAKI=葉知利書」は昭和59年('84)10月、当時の会長・平井進氏の提案で発行が開始されました。当初は「ハガキ1枚」で、文字どおり「走り書き」する程度のものであったため、モジって「葉知利書」と名付けられました。その葉知利書が来年2月発行をもって記念すべき100号を迎えます。会員の皆さんのOISの思い出、建設的なご意見を掲載したいと考えていますので、ぜひ、OISに対する思いを綴ってください。

◆募集要項
 文字数：400字～600字＋内容についての画像・写真を2～3枚
 締切：12月22日(メールでの送稿も可能)
 一般投稿採用分には記念品をお贈りします。
 尚、文意を変更しない範囲内において編集を加えることもありますので、ご了承ください。





インテリアの仕事とは

青年部企画の「MANA-BOZE」の第6弾が9月5日(土)、コラムデザインセンター教室で行われた。

インテリアを志す若い人たちに、学校を卒業し入社、努力して一人前になるプロセスや心がけなどを話してもらうのが目的で、テーマを「インテリアの仕事とは」と決め、OISの元会長(現顧問)で本部SJIT現会長、また、元高島屋工作所勤務・設計部長を歴任し経験豊富な足田さんに講師を依頼したが、聴講に集まったのは青年部

といわれる年代の人はまばらで、現役バリバリの人、さらには、すでに現役を退いた人の顔も見える有様であった。

学生時代にコンペに入選した話から始まり、入社当時は何も分からない状態のまま半年間は木材や突き板の管理をさせられ、そのおかげで材種を覚えることができた苦労話、また、先輩や工場の技術者に可愛がられるようなことを学んだ話、1970年の万博・フランス館での職人との付き合い方など、受講者の顔を見ながら話の内容を変更しつつの講演となり、なるほどと頷きながら聞き入る姿を多く目にした。

後半は足田さんが設計された住宅や椅子などの実例写真による説明、椅子の原寸図など参考になる資料も展開され、約1時間にわたる講演を終えた。

終了後、講師を交えての交流会では、世間を騒がすオリンピックエンブレム問題やデザインのあり方について大いに語り合った。(記・奥田 忠彦)



場所を見ますと自宅の近所でしたので、初めて参加しました。

どこかのお店に行くと思っていましたので、こんな住宅街の真ん中にお店があったかな? と少し不安でしたが、前回開催されました愛宕山登山に、五代さんのお知り合いの出張シェフ・河村さんが参加されていて、その河村さんのお家で料理をいただく企画だったので、まるで、友人宅でのホームパーティーのような感覚でスタートしました。

会費がとてもリーズナブルでしたので、簡単な軽食だと思っていましたが本格的なコースでした。こだわり抜いた物ばかりで、どうしてこのお値段で出来るの? と訊ねますと、場所代がかからないので、その費用を食材にかけられるのだというお話で、シェフのお人



主なメニュー

ホームパーティーの味を存分に

2015.6.27(土)

柄を感じました。パーティーはビールで始まりましたが、途中から紹興酒の瓶をあけていただきました。普通はお砂糖入れて飲むことが多いのですが、開封したてのものはとても甘い香りがして、レモンを絞るだけで充分美味しいのだそうです。ちなみに私はお酒が飲めません(泣)が、回りの雰囲気や段々気分が良くなりました。シェフとも打ち解け一緒に飲んでおられました。最初は遠慮がちに飲んでおられたが、最終的にはシェフもけっこう酔っておられ、デザートのカレーが面白い形になっていました。お仕事の邪魔をして申し訳ないと言いますと、『いつもは楽しそうに飲み食いされているのを眺めているだけだったから、こんなに楽しい仕事ははじめてだ』と、楽しんでいただけただようホッとしました。

OISの方々とお会いするのは今回が初めてでした。いつも読ませていただいている「葉知利書」の真面目な記事から受ける印象とは大きく異なり、気さくであたたかい方ばかりなのだ、イメージが変わりました。今後もスケジュールを見て、皆さんと楽しいひとときを過ごしたいと思います。

私と同じように、OISの催しに参加したことのない人も、ぜひ一度参加してみてください。きっとOISが好きになると思います。(記・中井 佐世理)

レトロビル屋上でビアパーティー

私は学校の先生と同期の友人の紹介でOISに入会しました。入会の決め手となったのは、会員になる以前か



芝川ビル玄関の装飾

ら参加させていただいたデザイナーズバーで、職業や年齢の異なった多くの方からお話を聞いたり、聞いてもらったり、私にとってとても有意義で楽しいもだったからです。7月31日に、レトロビルとして知られる芝川ビル屋上でのビアパーティーも、そういった貴重な交流の場であり、とても楽しみに思って参加させていただきました。お酒を呑んで、お料理を食べて、会話を楽しむ、ごく普通のことのように思えますが、いろいろな境遇・立場の異なる方々と分け隔てなく仲良く楽しめる場は、そう容易にはないと思います。私はこれからも、このつながりを大切にしていきたいです。(記・太田 凌暉)



芝川ビル内部の一部

繁昌亭で“話芸”を楽しむ

残暑厳しい8月22日、田原副会長、賛助会員・二加屋の杉本社長夫妻、事務局岡崎さんとともに天満天神繁昌亭屋席公演に行ってきました。

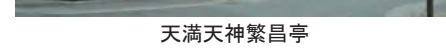
繁昌亭設立のいきさつはもう周知のことかと思いますが、「上方落語の定席復活」が我々にどんな恩恵もたらしてくれるのか以前から興味津々でした。結論から言えば、「行かな損!」、前売り2,000円でこれだけ楽しい時間を過ごせるのかと思いました。

定席は「毎日公演がある」ということで、繁昌亭では1週間ごとに10人の演者が組まれています。入場すると演者一覧が載っているパンフレットが渡されますが、そこには演目がかかれていません。その日のノリで演者が演目を選んでいるのか、先入観なしで聴いて下さいということなのかわかりませんが、これも定席のしきたりなのかも知りません。話を聴いているうちに「ああこの話か」と気がつくものもあれば、創作落語もいくつかありましたので「どんなオチになるんや」と期待したりして、やはりテレビ等で聴くのと違う楽しさがあると思いました。

この日の演者の中で、私はテレビ等でも活躍しておられる桂坊枝さんが元々好きでした。演目は「がまの油」。油売りが口上を滔々とまくたてるところは圧巻でしたが、その油売りが一休み中に大酒を喰らってしまいバロバロに酔っ払って口上を述べる支離滅裂の様子がこれまた最高に面白く、仲入り前の会場が大爆笑に包まれていました。

ちなみに、坊枝さんの1人前で「めぐり(演者の名前が書かれた紙札)」が一覧に載っていない「鶴瓶」となりました。「またまた冗談を…」と思っていたら、本当にご本人が登場され、会場は大盛り上がりになりました。こういうサプライズも組まれているようです。この後で登場した桂坊枝さんは開口一番「やりにくー…」とこぼしておられました。

仲入りを挟んで計3時間半、眠気を感じさせる隙は一瞬たりともなく、たっぴりと笑わせてもらい大満足で外へ出ると、その日の演者総出でお見送りをして下さったので、よりいっそう落語を身近に感じることができたように思いました。



天満天神繁昌亭



桂坊枝さんのオフィシャルサイトから

(記・瀬部 明)

恋をしました…イタリアに!

山田 ヒロミ

8月から9月にかけてイタリアのベネチア→パドバ→ミラノ→ダマヌール→トリノ→ローマ→パチカンを列車とレンタカーで、女二人旅をしてきました。緯度や気候、黒髪や背格好、食べ物が美味しいことや発音など、イタリアと日本は、建築以外では似ている点が多く、スリ対策が必要なこと以外は、日本にいるような快適さで、たいへん親切にしてもらいました(特に、日本人女性には優しいそうです)。階段と坂が多く、ホームと列車には大きな段差があり、列車内でさえ階段があるので、元気なうちに行かれることをオススメします。ちょうどバーゲンシーズンで、素敵なデザインの夏服が信じられないお安さでセールされていて、

に行けなくなり、自分で作るようになりました。レストランで、ワインの自動注ぎ機を発見したときは、さすがイタリアと感心しました。どの町も映画のセットのような美しさでしたが、特にベネチアは女性二人で来る町ではないロマンチックさでした。

スペイン広場では、友人と一緒にジェラートを食べ、真実の口に手を入れ・・・と「ローマの休日」ごっこを楽しみました。パドバではパドバ大学にガリレオ・ガリレイが教鞭を執っていた時の演台があり感動し、宮後先生に教わった手描きスケッチパースの手法で教会内部をスケッチして、それぞれの時代の建築の特徴を私なりにつかみました。

ミラノのドゥオーモ(大聖堂:レオナルド・ダ・ヴィンチ設計)は圧巻で、重厚で壮大で圧倒的なゴシック建築を500年もかけて作らせたカソリックの強力な勢力に、怖ささえ感じるほどでした。有名な「最後の晚餐」も見えました。本物を見るという大切なことを楽しく体験できた良い旅でした。

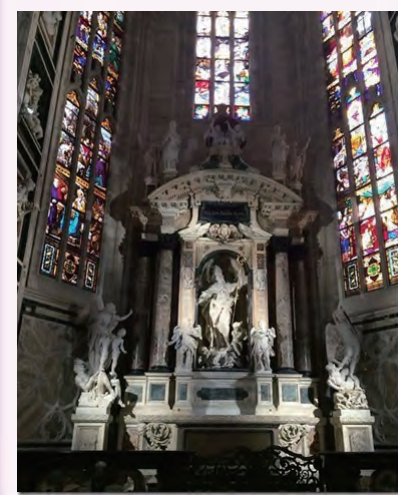
ローマの空港でダ・ヴィンチの「ウィトルウィウスの人体図」と「神聖比」を合体させた木製の模型を発見し、その秀逸さに感心しながらイタリアを発ちました。



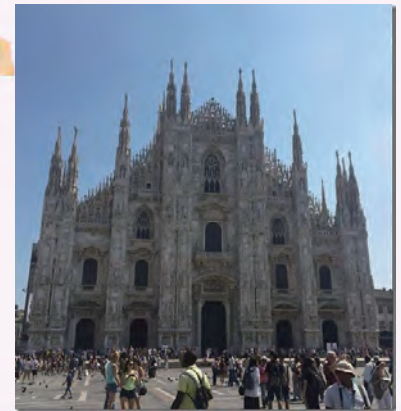
ダ・ヴィンチの「ウィトルウィウスの人体図」と「神聖比」の合体模型

今回は買い物目的で来ようねと、一緒に旅した友人と約束をしました。コーヒーが安くて美味しく、コーヒー好きには天国です。私はカプチーノを好んで飲みましたが、日本と呼び名が違うので、予想と違うのが出てきたりしますが、いろいろ試すと楽しいです。

もちろん、ピザも安くて味の外れなし、日本に帰ってからは、ピザ屋とスタバ



「真実の口」に手を入れる筆者



← ミラノのドゥオーモ →